家づくりが育む建築への道のり ｜ 近代建築は構造の合理性から

一級建築士事務所アトリエ4A代表　天野 彰

（第５回／全 12 回）

なぜアーキテクチャーなのか？改めて考える

北欧から徐々に西欧中央に至ると近代建築バウハウスを含め機能主義のシンプルな斬新さを感じ、南に下る都度にルネサンス調が色濃くなり、伝統に圧倒されておもねる中?でアールヌーボーからアールデコなどと活路を見いだすことの苦悩を感じる。

そもそも近代建築以前に、アーキテクチャーとは何か?などと言う疑問も生まれ、彼ら西欧の学生たちと原点に立ち返った議論もした。のちに親友の鈴木エドワード氏(故人)と議論をしたとき、建築の構成は石材のピースを重ね、見事に堅固なアーチarchを組み上げる職人の技術のtechnicsの結集からではないかと主張したことに、英語圏で学んだ彼は「多くの職人を束ねること」がアーキテクチャー*1の語源と頑張っていた事が想い出深い。

バウハウスの創設とモダニズムの源流と日本

果たして近代建築に大きく寄与したのはやはりバウハウス*2の存在であり、ヴァイマール(ワイマール)には当時訪れようもなかったが、西欧中央に居て、深く感じることは創始のヴァルター・グロピウスやミース・ファン・デル・ローエ、ル・コルビュジエなど世界に大きく影響を与え、しかも彼らがわが国の神社仏閣建築や民家などの柱と梁のシンプルな構造様式でユニバーサルな間取りの手法に大きな関心を持っていたこともうかがえた。

事実絵画に至っては浮世絵や磁器陶器などに大きな関心を持って大きく影響を受けていることを感じた。そのためか日本人の私にも関心が持たれ?悦に入っていたような気もした。こうしておなじ世代の学生たちと話し合うと、彼らも発想の飢えを感じ、活路を求めていたように思えた。かつてのわが国の先人たちもそのような受け入れ方をされたのかも知れないと思える。

明治大正にかけてわが国の建築に西欧思考を取り入れようとした西欧建築の模倣は、既に彼らにとってはただの重苦しいだけの過去の遺跡のような存在だったとも感じた。やはり実際に行き、観て、聴き、解かった気もする。

木材とスティールで結ぶドイツの合理性とシンプルデザイン

和と西欧との不可解な共通点を見いだし意気揚々として帰って来たとき、かの臼杵の“酒樽の家”は完成を目前としていた。そこで“ヨーロパ帰り”の腕前はいかがなものかと言うところか?室内の調度のデザインを任されることになった。

まずは既成品の予定であった暖炉を手作りで、そして飾り棚を統一デザインにと、あのバウハウス・デザイン気取りで?精力的にスケッチし、さらに玄関の階段の手すりや段受けなどを極力シンプルに鉄筋とボルトで無垢の板を支え、飾り棚は天井の梁から吊って、コートハンガーに至るまで鍛冶屋さんと奮闘することとなった。

実施設計が終了して渡航する前には思いもよらなかった家具や調度の発想やイメージに自分でも驚くほど変わっていることに気が付いた。もともと箱に組んで造る飾り棚や階段だったが、主だった木材を象徴して見せるために、方立の木材を限りなく細い鉄筋やボルトでしっかり留めていく。

結果、棚板や階段板がまるで宙に浮いているように見え、しかも木材と鉄をバランスよく組み合わせて繋ぎ、留めナットで微調整するとかなりの強度や振動に耐えられるものとなった。まさしく近代建築のモダンデザインのシンプルなカタチとはその骨組みの構造と素材の持つ美との合理性からだった。

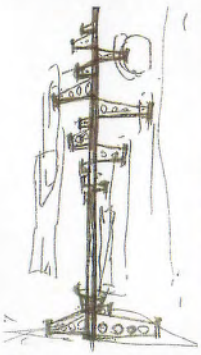
理屈では解っていたことも実際に建て主の前で絵にして造ると、意外にも斬新で面白いものとなり建て主からも好評だった。

そして、有頂天な若造に起こった不運?

こうして満悦の中、いよいよ親友の写真科の沖輝雄君と完成写真を撮りに行くことになったが、あいにくの台風間際の悪天候、「台風一過の晴天の中で撮ろう!」と就寝したが・・・。

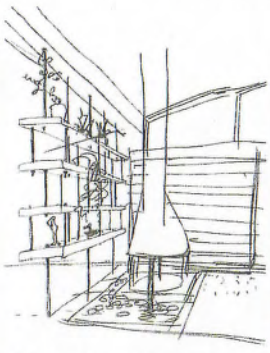
*1建物の構造や工法を含めたギリシャ語のarkhitekton(アルキテクトーン)からラテン語のarchitectus(アルキテクトゥス)、architectura(アルキテクトゥーラ)と変化し、英語のarchitecture(アーキテクチャ)となった?その語源はarchi-(最上の・トップ)と-tekton(職人・技術者)の説が有力と言える。

*2バウハウス(Bauhaus)グロピウスがドイツ語で「建築の家」と表現しドイツのワイマールに設立。美術や建築に関する総合的な教育機関。装飾を極力廃して合理性を追求したモダニズム教育。なかでもミース・ファン・デル・ローエは建築のモダニズムを代表し、あの柱梁の構造(ラーメン)で多機能空間「ユニバーサルスペース」という概念を提示。ル・コルビュジエ、フランク・ロイド・ライト、グロピウスのモダニズム四大巨匠と言われる。



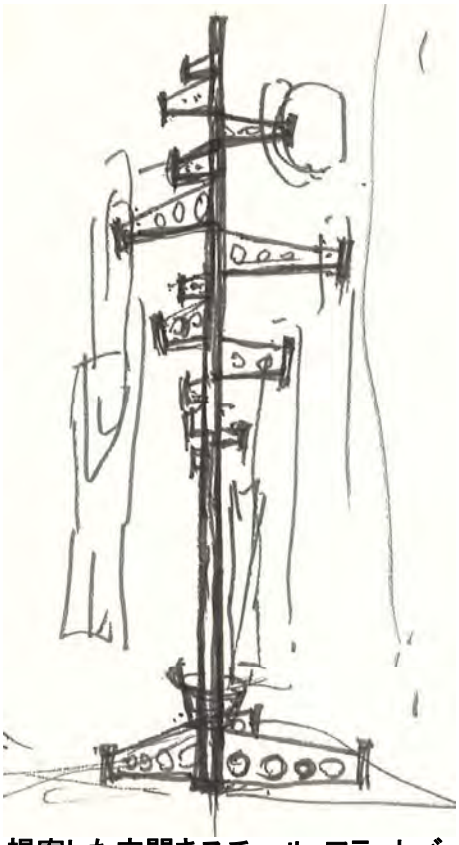
提案した穴開きスチール・フラットバーのコートハンガーのスケッチ(画:筆者196409)

出来上がった玄関コートハンガーと階段の段板方立と手摺（写真:沖輝雄氏196410）

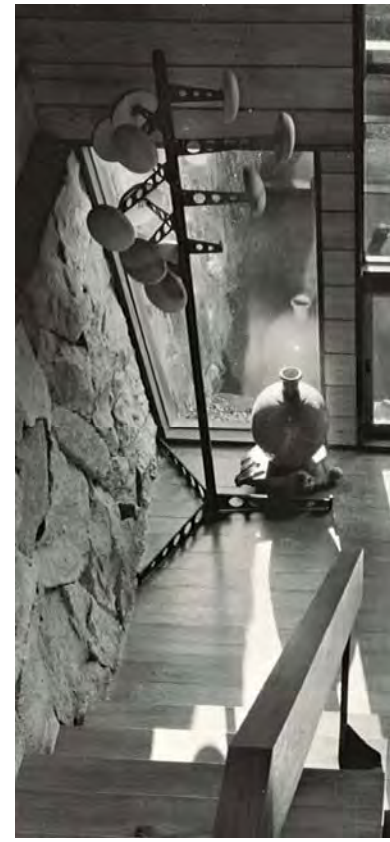


提案したリビングの暖炉とダイニング吊り飾り棚のデザインスケッチ　(画:筆者196409)

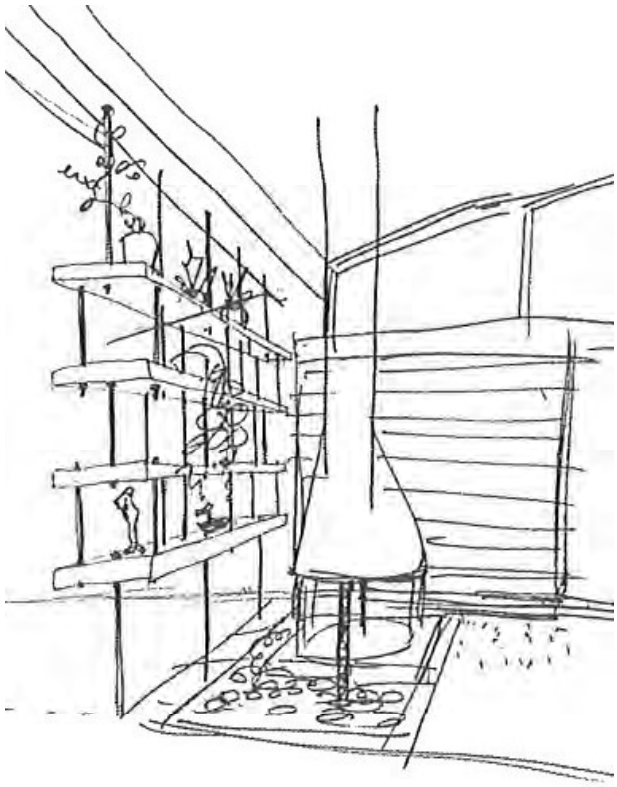
“酒樽の家” 6㎜厚鉄板を叩きあげた暖炉と角鋼棒で松の板を天井から吊るしたダイニングの飾り棚(写真:沖輝雄氏196410)



提案した穴開きスチール・フラットバーの
コートハンガーのスケッチ (画：筆者196409）



出来上がった玄関コートハンガーと
階段の段板方立と手摺 （写真：沖輝雄氏196410）



提案したリビングの暖炉とダイニング吊り飾り棚の
デザインスケッチ （画:筆者196409）

“酒樽の家” 6mm厚鉄板を叩きあげた暖炉と
12mm角鋼棒で松の板を天井から吊るした
ダイニングの飾り棚(写真：沖輝雄氏196410）